



流れ山
Flowing mountain
来田 広大
Kida Kodai

【広報画像01】 "Birds-eye view -Mt. Fuji" / W5000×H5000mm / ナイロンシートに黒板塗料、チョーク、水 / 2015/『拠点の先、視線の場所』@Galerie Aubedeのライフローイング photo by: Hara Shoko

流れ山

Flowing mountain

来田 広 大

kita kodai

2015年12月9日[水] — 12月22日[火] 11:00~19:00 *月曜日休廊・金曜日20:00まで・最終日18:00まで

*本展は九日(水)開始、二十二日(火)終了の変則会期となっております



【広報画像01】 本展DM使用画像 『視点の先、視線の場所』(京都造形芸術大学 Galerie Aube)でのライブパフォーマンスの様子

Gallery PARC[グランマーブル ギャラリー・パルク]では、2015年12月9日(水)から12月22日(火)まで、来田広大による個展「流れ山:Flowing mountain 来田広大」個展を開催いたします。

2010年に東京藝術大学大学院 美術研究科油画技法材料を修了した来田広大(きた・こうだい/1985年・兵庫県生まれ)は、2013年『Birds-eye view』(Gallery PARC)、2014年『FUGAKU HYAKKEI』(ギャラリー・昨明・福島)の個展をはじめ、2015年には『視点の先、視線の場所(来田広大/吉本和樹二人展)』(京都造形芸術大学 Galerie Aube)を開催や、『これからの、未来の途中』(京都工芸繊維大学美術工芸資料館)に参加するなど、現在までに京都・福島・東京をベースに作品制作・発表を続けています。

近年、来田はおもに「山」をモチーフに、チョークを用いた絵画制作に取り組みながらその展開を試みています。

場所を選ばず地面に絵画性を持たせるための画材として選ばれたチョークによる絵画制作は、子どもの頃に「何かを想いながら」道路に落書きしていた感覚をもとに、その後に様々な支持体とイメージによって試行錯誤されてきました。たとえば2013年の個展『Birds-eye view』(Gallery PARC)では、自身がかつて実際に登ったり見たりしたことのある北アルプスなどの山々を俯瞰したイメージを描いた作品『Bird's-eye view』や、ある場所から見渡したパノラマの山並みを描いた作品『Landscape of 360°』を発表。また、2015年の『これからの、未来の途中』では、京都と滋賀の県境に位置する比叡山をモチーフに、会場屋外の地面に巨大な「山」を描き出しています。

「何かに想いを馳せながらそれぞれの記憶を辿り、足跡を残すように場に介入していくことは、定着した固有のイメージを改めて捉え直し、その像を更新していくことではないだろうか。」と語る来田は、これまでに実際に登った山に思いを馳せながら、その時の印象や記憶を手がかりに記憶の中の山を描きます。しかし、描くに連れてチョーク粉の飛沫や伸び・擦れによる流れるような線と面は、次第に遠く靡げな“山のようなモノ”のイメージともなって表れてきます。

そして、鑑賞者にとってこの“山のようなモノ”は、遠い昔に体験した雪山登山の景色であり、テレビで見たことのある遠くの山であり、あるいは雲の流れる空であり、荒れる海の波しぶきであり、単なる子どもの落書きでもあるかもしれません。しかし、鑑賞者は確かに絵の前で「遠く(何か)に想いを馳せる」ことを喚起され、それぞれの記憶や認識は目の前の絵画によって更新されるのではないのでしょうか。

本展では、過去に取り組んできた建物の屋上や床に直接チョークで描く行為をギャラリー空間内でおこないます。床に広がるチョークは鑑賞者が歩くたびに干渉を受け、日々その像を変化させます。また、そうしてかき消され、掠れ、流れた線を受けて来田は会期中にこの絵画を更新し、描かれる山は常に流れ続けることとなります。

※来田広大は、京都工芸繊維大学美術工芸資料館が主催する「大学美術館を活用した美術工芸分野新人アーティスト育成プロジェクト」の一環として、『これからの、未来の途中』に続き開催される『93.「未来の途中」の先を夢見る。』(2015.11/28~12/23・ARTZONE)にも出品しております。

流れ山

Flowing mountain

来田 広 大

kita kodai

2015年12月9日[水] — 12月22日[火] 11:00~19:00 *月曜日休廊・金曜日20:00まで・最終日18:00まで

*本展は九日(水)開始、二十二日(火)終了の変則会期となっております



【広報画像031】『これからの、未来の途中』@京都工芸繊維大学美術工芸資料館でのライブドローイングの様子

本展の周知・広報にご協力頂ける際に、広報用画像をご用意しております。本リリース掲載画像からご希望の画像番号および掲載媒体情報を明記の上、【info@galleryparc.com】迄ご連絡ください。尚、個人の鑑賞および利用を目的とする場合は、画像の貸出しはお断りしておりますのでご了承ください。

展覧会名 流れ山:Flowing mountain 来田広大 個展

出展作家 来田広大 Kita Kodai (<http://kodaikita.com>)

会 期 2015年12月9日[水] — 12月22日[火] 11:00~19:00

*月曜日休廊・金曜日20:00まで・最終日18:00まで

*本展は水曜日(9日)開始、火曜日(22日)終了の変則会期となります。

料 金 無料

内 容 チョークなどの画材を使用し、実際にある山の上を歩くように、俯瞰的な視点で「山(のような)」風景を描いてきた来田広大の個展。本展では、ギャラリー・パルクの床に描かれたライブドローイングを中心に展示いたします。

会 場 Gallery PARC[グランマーブル ギャラリー・パルク] 〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48 三条ありもとビル

ア ク セ ス 阪急河原町駅・三条京阪駅より徒歩10分、地下鉄東西線京都市役所前駅より徒歩3分。三条通・御幸町通の交差点北西角[グランマーブル]店舗内2階

問 い 合 わ せ Gallery PARC (正木・永尾) 〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48 三条ありもとビル [グランマーブル]2F
【Tel&Fax】075-231-0706 【Mail】info@galleryparc.com

私は、土地・場所と人との関係を俯瞰的に探るために山をフィールドワークの拠点とし、そこから臨む風景を地図として捉え、今・ここにいるという意識を立ち上げさせることを作品制作の基軸としている。

現在、人の存在と強く結びつけられた「場所」の意味が大きな変容を遂げようとしている。「場所」や「記憶」、「領域」や「地図」をめぐる問題について考えるとき、私はそこに介在する「視線」に着目することを促すために、ある種の「境界」とされる領域からの眼差しによる俯瞰的な地図を、イメージとして顕在化させるを試みる。

そのイメージは、周囲との関係や自らの立ち位置をも俯瞰的に捉えることを可能にし、世界との距離、また関わり方を確認することに繋がるのではないだろうか。

手掛かりとして、点と点を繋いでいくように、土地と人との狭間にある「記憶」を辿り、線を引いていく。山道を一步一步と登り徐々に視界が開けていくように、いつしか私と世界との関係性の地図が見えてくる。

流れ山 Flowing mountain

あなたと私、向こうとこちらの間には距離や認識の差異が存在することを予め理解した上で、鳥瞰図のような山の上を歩いて行く。

私はこれを「富士山」と認識して描くが、人はそもそも山だとも思わないかもしれない。

その“山のようなモノ”を目の前にしたとき、あなたは何を想い描くのだろうか。

昨日見た海の波しぶきかもしれないし、遠い昔に体験した雪山登山の景色かもしれない。

何かに想いを馳せながらそれぞれの記憶を辿り、足跡を残すように場に介入していくことは、定着した固有のイメージを改めて捉え直し、その像を更新していくことではないだろうか。

万物は常に流動するように、イメージも変容し、風景の中に新たに地図が描き加えられる。

床の上の絵画が、個々の記憶の中のイメージを供給し、とめどなく拡がるそれらを納める器のように、そして、あなたと私の境に存在するものを示唆するように、空間の中で機能することを願う。

来田 広大

来田 広大

- 1985 兵庫県生まれ
- 2006 メキシコ留学(07まで)
- 2008 東京藝術大学 芸術学部絵画科油画専攻卒業
- 2010 東京藝術大学大学院美術研究科油画技法材料修了
- 2012 京都造形芸術大学 大学院芸術研究科副手

個展

- 2014 "FUGAKU HYAKKEI" ギャラリー昨明, 福島
- 2013 "Birds-eye view" Gallery PARC, 京都
- 2012 "Drawing birds-eye view" MU東心斎橋画廊, 大阪
- 2011 "来田広大展" ギャラリー昨明, 福島

おもなグループ展

- 2015 "「視点の先、視線の場所」beyond perspective, locus of eyes" 京都造形芸術大学 Galerie Aube (来田広大/吉本和樹二人展)
- "「これからの、未来の途中」On the Way to the Future, and Then: 11 Newcomers of Art, Craft and Design" 京都工芸繊維大学美術工芸資料館
- 2014 "Art Point Iwaki 玄玄天 gengenten" 福島
- "「見ること・描くこと」—油画技法材料研究室とその周縁の作家たち" 東京藝術大学大学美術館
- 2013 "紙技京都2013" 京都国立博物館 茶室「堪庵」
- "Art meeting 2013 / 田人の森に遊ぶ" 福島
- "紙技東京" HIGURE 17-15 cas, 東京
- 2010 "Iwaki Art トリエンナーレ 2010" 福島
- "東京藝術大学修了制作展" 東京藝術大学, 東京
- 2009 "Arakawa Art Action 2009" 東京
- "Art meeting 2009 / 田人の森に遊ぶ" 福島
- 2008 "CAAF2008/24+6" クレアーレ青山アートフォーラム, 東京
- 2007 "メキシコへの道" ギャラリー昨明, 福島
- 2006 "二人展" Garros Galeria, メキシコシティ

受賞歴

- 2012 紙技百藝2012 大賞 雅景錐SAAS, 京都
- 2008 O氏記念賞(大橋賞) 東京藝術大学卒業制作展

レジデンス

- 2009 "赤倉アカデミーインレジデンス2009" 赤倉温泉, 新潟



【広報画像04】

"FUGAKU HYAKKEI -drawing"

W1940×H1620mm /

キャンパスに黒板塗料、Google Earth資料(print)、チョーク

2014



【上: 広報画像05】

"Line of Mt. Aizu Bandai The West Side" / W5820×H970mm / キャンバスに黒板塗料、チョーク、オイル、コンテ、土 / 2015

【下: 広報画像06】

"Line of Mt. Aizu Bandai The East Side" / W5820×H970mm / キャンバスに黒板塗料、チョーク、オイル、コンテ、土 / 2015



【広報画像05】

"Birds-eye view -Mt.Hiei"

W330×H330mm(8点)

ネルに黒板塗料、チョーク、オイル、コンテ
2014



【広報画像06】

"Birds-eye view -North Alps #1"

W910×H910mm

パネルに黒板塗料、チョーク、コンテ、オイル
2013



【広報画像07】

"On the rooftop somewhere"

5:54m

2014



【広報画像08】

"Boundary"

4.12m

2015